

「グローバル関係学」特任研究員研究発表会 発表要旨

Relational Studies on Global Crises: Presentation Meeting for Research Fellows

日時：2017年3月23日（木）16：00～19：00

場所：千葉大学 演習室 21

発表者1：韓 葵花

発表タイトル：東アジアの経済統合について

要旨：

日中韓自由貿易協定（FTA）の交渉会合は4年間経過したが、その進展はとても遅い。中国と韓国の政府戦略を見ると、中国は「一帯一路」戦略で積極的な自由貿易を提唱し、韓国は「FTA 強国」を目指しているので、日本の「2018年までのFTA 比率70%」の目標と、おおむね同じことがうかがえる。たとえ2016年から世界で先進国を中心に保護貿易政策を唱えるとはいえ、世界経済の2割を占めるうえ、世界貿易の2割を上回る日中韓では地域のバリューチェーンも盛んでおり、貿易創出効果や、貿易転換効果がさらに期待できるので、各国の目標を達成するためにも日中韓FTAの実現が早くなることが予測できる。

発表者2：韓ビョンソブ

発表タイトル：「朝鮮の政治・経済的動向と南北統一を超え統合の阻害要因」

要旨：

近来、世界を脅威しているいくつかの中で、北朝鮮の脅威はレッドラインを超えている。北朝鮮は、三代世襲の政権を維持しようと、先軍政治による核武力建設並進路線と中央執権的計画経済制度に市場経済的要素を一部度入した経済制度を推進している。それで北朝鮮の政治・経済状況は、核開発や弾道ミサイル開発により生活困窮に陥いて、毎年平均100万トンくらいの食糧不足状態で、2007年度北朝鮮の全体国民33%780万人が栄養失調状態であった。それで毎年多くの脱北者が増え続けていて、韓国だけに約3万人の脱北者が住んでいる。

こういうわけで、世界の平和と繁栄のために南・北統一は必然的かつ絶対的に必要である。しかし、南・北統一は分断以前に回帰するのではなく、二つの体制を統合し、自由民主主義と市場経済、人間の尊厳と価値尊重などを基盤にした民族共同体を建設することを意味する。南・北統一は朝鮮半島のためだけではなく、戦争の懸念を取り除き、東北アジアの平和増進のためにも、世界平和と人類共栄のために南北統一は切実である。そして南・北統一により、ユラシアと太平洋経済圏の核心ハブ国家としてユラシアと太平洋をつなぐ経済共同体圏としての役割わりを担うことを期待する。

では、南・北統一を超え統合の阻害要因をいくつか考えて見る。その要因は、北朝鮮情勢の不安定(武力脅威、恐怖政治、人権問題、経済的クライシス)、南・北間の文化や経済的な格差、南・北統一に関する教育や外交不足、そして南・北政治体制の問題などである。

今の北朝鮮の問題を解決し世界の平和と共栄のために、あげられた阻害要因を平和的に知恵と忍耐をもって除去し、南・北が統一になるように願う。

発表者 3 : KOKAKI, Aya

発表タイトル : *A Preliminary Analysis on the Internal Structure of the Gülen Movement (Hizmet) in Turkey*

要旨 :

This presentation firstly explained the present state of Turkish politics after the foiled coup attempt of July 15, 2016, which made a huge impact on Turkey. After overviewing a brief history of the Gülen movement (*Hizmet* in Turkish), a civil society movement led by the Muslim intellectual Fethullah Gülen, it examined the internal structure of the movement that have been emerging since the foiled coup, by analyzing the testimonies of the detained members of the movement and so on. As a tentative conclusion of this preliminary analysis, the Gülen movement has insisted that it conducts many activities to promote “democracy” in Turkey and around the world as a civil society movement, but as a result of analyzing, the contradiction between the way the movement has present itself to the outside and what it has been secretly engaged in has been revealed. It was pointed out that within the movement there are many undemocratic practices and outside the movement, they exerted a predominant influence on several structures in Turkey, which the AKP government has harshly criticized as a “Parallel Structure/State”.